

筆山

第76号／2025年3月

土佐中・高等学校同窓会
関東支部会報

編集人/ 中平 公美子(59回)

発行人/ 関東支部幹事長 町田憲昭(67回)

関東支部ホームページ:

<http://www.tosako-kanto.org/>



2025年学年幹事会が開かれました

関東支部総会は2025年6月7日(土) 日本プレスセンターでお会いしましょう

関東支部の皆様には益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。いつも同窓会活動にご協力いただきありがとうございます。

2025年2月15日、TKPガーデンシティ渋谷にて学年幹事会が開かれ、今年度の関東支部の活動が開始されました。門田道也支部長(52回)体制となつて2年目。今年度は支部役員の異動もなく、同じ顔ぶれで活動してまいります。6月の総会・懇親会において準備が始まりました。2025年総会準備は、回生末尾5の回の皆さんです。

町田憲昭幹事長(67回)から、2024年度の活動報告と会計報告、今年度の活動予定についてお話がありました。(支部活動は2ページに詳細あり) 今年5月には、同窓会本部から全同窓生宛てに、名簿調査のハガキが届きます。近年、会員登録が進んでいないことは支部の悩みです。HPからも登録が出来ますので、新規登録・更新をお願いいたします。

関東支部の活動として、昨年7月に香川支部の総会・懇親会に、東京から香川に単身赴任中の同級生を誘って参加しました。眺めのいいレストランに、各回生がバランスよく集まっている印象でした。四国電力など同じ職場の縦の関係も良好で、誘い合つて参加されていました。香川支部の方々にも関東支部会報誌『筆山』が配布されました。81回生の方々に、佐藤彩記子さん(81回)が執筆された記事を見てもらいました。筆山編集員として活躍されていることを紹介出来て嬉しかったです。他支部同窓生との交流で、同窓生の土佐校への関心は深く、大きな期待をもっているのだと改めて実感しました。

関東支部には、交流を深めるためのイベントがたくさんあります。イベント情報は、関東支部HPに随時掲載いたします。総会はもちろんのこと、学生・若手社会人向けの企画など気軽に参加ください。縦横のつながりは、時に頼りになるものです。『ご奉公に』企画運営にも関わってみませんか。

さて、学年幹事の集まりは、毎年顔を合わせるメンバーと言うこともあり、懇親会はアットホームな雰囲気です。全員が、一言スピーチで更なる懇親を深めます。山本英雄さん(34回)は、毎年続いた学年同窓会を高齢のために終了したと寂しそうにお話されました。同世代からは、介護のための高知帰省のこと、高知のお墓を関東に移した話も大変参考になりました。また、新しい事業を始めた方、博士号取得に向けてもう一度学生生活を始めた方と、意欲的なお話には、やっぱり「土佐校」はすごいなあと感じ、まだまだ頑張れとエールをもらいました。

関東支部だより

学年幹事会開催 2月15日(土)

2025年度学年幹事会が、TKPガーデンシティ渋谷で開催行われました。1学年に数名の方にご参加をお願いしています。(巻頭に写真)

町田憲昭(67回)幹事長から支部活動について説明と報告が行われました。

■活動報告 2024年活動より

筆山会

・新年会 2024年1月13日

・昼食会 不定期第3週木曜日

◎ホテルニューオータニガンシップ

学年幹事会

・TKPガーデンシティ渋谷

総会・懇親会

・2024年6月1日 ◎日本プレスセンター

・基調講演 英保未来(大森望 54回)

会報誌『筆山』2024年7月発行

郵送費の値上げのため年一回の発行

他本支部総会訪問

・高知・北海道・東海・関西・香川・徳島・広島

役員会 年3回

■会計報告

2024年収支報告

・近時の年会費の実績紹介

会費振込のお願い 筆山に払込用紙を同封

■各イベント報告と予告

縦横でつながるイベントを企画しています。

詳細は下段・別ページにて

■総会・懇親会の準備会発足

今年度担当は、回生末尾5の回の方々です。

■関東支部HPのご紹介と会員登録のお願い

HPで情報を公開しています <https://www.tosako-kanto.org/>

イベントお知らせや報告・会報誌は第1号からご覧いただけます

HPからの会員登録をお願いしています。(変更や更新も)

同窓生へのお声がけもお願いいたします。

住所登録
QRコード



関東支部公式
Facebookから
イベントの
お知らせなど



イベント情報

関東支部では、縦横でつながるイベントを企画しています。日時詳細はHPで

筆山会

新年会 1月第2土曜 @代々木倶楽部(新日鐵研修センター内)

昼食会 不定期第3木曜 @ホテルニューオータニガンシップ

麻雀大会 3, 6, 9, 12月 第2土曜

はちきん会

毎年10月開催 学生は更に格安

女性スピーカーによる講演とコース料理を楽しみます

ナイトの多額の拠出のおかげでちょっぴり格安が嬉しい会です

学生・若手社会人交流会

毎年12月開催

場所 東大駒場キャンパス 生協食堂2階 ダイニング銀杏

講演あり 懇親会あり 特に若手の方に 就職相談もできます

ハイクの会 9月第1週(土・日)

全食事付

登山や観光と俳句を楽しむ・1泊2日貸切バス格安旅行

お子様歓迎 費用は3万円程度・夜のおきゃくは飲み放題

TOSA GOLF SUMMIT 年2回開催

サミットゴルフクラブ(石岡市)でゴルフコンペを開催

費用は30,000円程度(昼食とパーティー付き)

留学支援基金
返済不要
短期もOK
詳しくはHPから

38 池田勲夫
土佐中高同窓会関東支部基金

38回生有志による資金拠出により、同窓会関東支部に奨学金制度を新設
同窓会関東支部の若手会員を応援

- ・同窓会関東支部に所属する若手会員を対象
- ・返済不要の給付型奨学金
- ・海外留学などの海外プログラムが対象

選考基準

- ✓海外への財源を好奇心を有する者
- ✓夢や目標のある者
- ✓母校や同窓会に対する思いのある者
- ✓返す土佐の名に叶おうとする者

詳細は土佐中・高専学校同窓会関東支部のホームページに掲載
www.tosako-kanto.org

「甲子園で校歌を歌う会」の発足報告

皆んなで甲子園に行って校歌・応援歌を歌うぞ！

2016年春を最後に遠ざかっている甲子園。甲子園で勝利の校歌を歌ったのは1976年春、なんと約半世紀前。2023年の秋、岡豊高校に圧倒的に負ける土佐高野球部を嘆いた、池田勲夫さんを中心とする38回生有志が、高知ひろめ市場で情けなさや怒りが込みあげ「土佐高野球部を甲子園に出場させる、土佐高の文武両道を復活させる」と意を決したのが、発足のきっかけとなりました。

思い出されるのが、1984年の関東支部総会懇親会で浅井幹事長が野球部の復活をテーマに掲げ300人以上の同窓生が集い、故籠尾監督ら野球部関係者を呼んでエールをおくった。すると、5年後に復活を果たし14年振りの甲子園出場が実現しました。もう一度同じ夢を、同窓会関東支部の力で実現したく、2025年2月15日の学年幹事会で「甲子園で校歌を歌う会」を同窓会関東支部の一つの活動として位置づけられたのでご紹介いたします。

【主な活動予定】、

1 関東支部会員に野球部の情報発信

現在野球部のHPを刷新しており(5月頃完成予定)、最新の野球部情報、試合予定や結果をタイムリーに更新していきます。それと連動して希望する関東支部会員に情報を発信していきます。

2 高知での練習、試合観戦

年に2回ほど、向陽グラウンドでの練習風景を視察し、公式戦(ベスト8位)に駆けつけ応援するツアーを行います。夜は懇親会を開催します。

3 土佐高野球部が甲子園に出場する為に必要な援助

①トレーニング機器購入、来賓観戦施設等の整備、寮のトイレお風呂場のリニューアルの資金補助(実施)



トレーニング室 寮内(左)・グラウンド内(右)

②ホームページの刷新(現在作業中)

土佐高野球部OB会と共同して、「多くの同窓生が応援したくなるHP、野球部入部を希望する中学生を魅了するHP」を目指して改良しています。5月頃には完成予定です。

③今後、高知に文武両道の少年野球チームを創設。高知の青少年の育成にも力を注ぎたく、高知に文武両道の少年野球チームを創設したいと思います。

【運営メンバー】

会長:池田勲夫、幹事長:市川直介、

幹事:中島宏、中平公美子、森山健一、町田憲昭

【資金】

支部の一般会費は使わずに特別寄付で運営していきます。

(写真提供は土佐野球部)



2年生8人 1年生17人 金田将賢監督のもと新たな進化を見せる

同窓会関東支部で土佐高野球部の応援の機運を高め、5年以内に甲子園で勝利の校歌及び応援歌を歌いたと思います。

皆さまのご理解ご支援をよろしくお願い致します。

第23回 はちきん会開催報告



はちきん会会長・濱田知佐さん(56回)の乾杯の音頭で宴の幕が開く。『STELLAR WORKS Restaurant & Bar』の入江誠シェフ考案の、高知の食材を使った特製地中海料理が振る舞われました。参加した皆さんは、目にも鮮やかな料理の数々に舌鼓を打ち、会話に花を咲かせました。

今年の講演者は、朝日新聞・経済部記者の岡林佐和さん(74回)。「新聞記者20年やってみた」と題し、新聞業界のジェンダーギャップや、日本のジェンダー問題、そして岡林さん自身のこれまでの取り組みについて、熱のこもった講演が行われました。

岡林さんは、神戸大学を卒業後、2004年に朝日新聞社に入社。省庁や民間企業など、経済分野の取材に奔走する日々を送っていました。出産を経て2013年に復職した岡林さんは、日本のジェンダー格差の大きさを改めて痛感。その経験から、ジェンダー関連のプロジェクトや新聞連載を次々と立ち上げ、精力的に活動が続けてきました。講演では、当時の社内における偏見や、上層部を説得するまでの苦労、そしてそれらを乗り越えてきた道について、ユーモアを交えながら語られました。

晩秋の心地よい風が吹き抜ける10月26日、東京・南青山の瀟洒なレストラン「STELLAR WORKS Restaurant & Bar」にて、第23回はちきん会が開催されました。会場は、笑顔と、懐かしい土佐弁の響きが織りなす、温かな雰囲気になりました。

後輩女子から花束贈呈される岡林佐和さん(右)





会場の「STELLAR WORKS Restaurant & Bar」(北青山一丁目青山ビル2階)はゴージャスな雰囲気、地中海料理を堪能しながら講演とミニコンサートが行われました。テラスでの二次会も話が弾みました。



次回「はちきん会」で、また皆様と笑顔で再会した。

参加者アンケートには、「岡村さんの講演に心を打たれた」「上久保さんの歌声に鳥肌が立った」「美味しい料理と楽しい会話で、至福のひとときを過ごせた」などの声が多数寄せられました。

食後は、ジェンダー問題についての「異論反論オブジェクション」のコーナーへ。西森さんとさん(57回)の軽妙な進行のもと、ジェンダー問題からSDGsまで、国内外の参加者から多様な意見が飛び交い、会場は熱気に包まれました。

会の後半には、スペシャルゲストとしてオペラ歌手の上久保沙耶さん(89回)が登場。東京芸大、そしてイタリアで研鑽を積んだ上久保さんの歌声は、まさに圧巻の一言。モーツァルトのオペラ「フィガロの結婚」の aria では、その透き通るような歌声に、会場全体が静寂に包まれました。続いて飛び出したのは、土佐高校の応援歌。上久保さんとともに、我こそは、と前に出た参加者らが大合唱。会場は一体感に満ち溢れました。



応援歌を歌う上久保さんと皆さん



オペラ歌手上久保沙耶さん(中央右)とピアニストのご友人(中央左)

場の進化を再発明し 人の無限の可能性を掲げる

留学した時に住んでいたハーバード学生寮を発想に、住まいと学びを融合させた国際学生寮「U Share」を開発運営中です。

「U Share」のコンセプト：

留学中に住んでいたハーバード大学の学生寮を発想に、学びと生活を融合させた国際学生寮「U Share」を開発。世界中から集まる学生たちが共同で生活し、学びや交流を深める場所。

コミュニティの重要性：

ハーバード大学は、さまざまな国や年齢層の人々と学生寮で共同生活を送りながら、企業家精神が育まれ、起業が生まれる可能性がある場所です。実際に、マーク・ザッカーバーグが学生寮でフェイスブックを開発したという感じです。

U Shareの発展と運営：

早稲田大学の近くに最初のプロジェクトを立ち上げ、コロナ後に留学生が戻り、プロダクトマーケットフィットが成立。その後、さらに広げる計画を持ち、社会人寮や家族寮なども取り入れて運営。当初起業したときに、住んでみないとわからないなと思ったので、1階が社会人寮で、2階の家族寮に我が家が住んでいます。住みながら、コミュニティマネジメント、みんなを一生懸命イベントに誘ったりしています。そんな寮母みたいなこともしています。

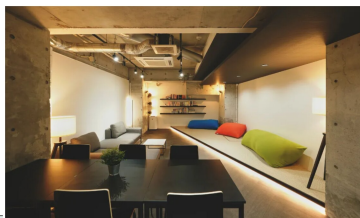
グローバルなネットワーキング：

MBA取得者や上場したCEOとの交流会を行い、グローバルなネットワーキングを推進。住む場所として、人生を変える可能性を提供しています。U Share南青山の方が、めちゃくちゃ面白いバイオテクノロジーの会社で起業、資金調達のためにコミュニティに参加して。結局6ヶ月で4億円を集めて、今急成長しています。

広がるプロジェクト：

現在、早稲田大学周辺に新たな300室規模の寮を開発中。慶應SFC近くや東京大学近隣など、他の地域でも大手デベロッパーと協力し、国際学生寮をグラデーションに沿ったデザインで展開中。

このように、「U Share」は、住まいと学びを組み合わせ、個人の成長や新しいビジネスの創出を促進する場として、国際的な交流を活発に行っています。



富山県立山では

製薬会社さんがハーブで製薬し、アロマオイルを作っている場所で、隈研吾さんとコラボしてデザインをしています。我々も、地元の人も投資して建物を作ります。地中に埋もれた不思議なサウナで、2020年サウナの品評会サウナシュランで一応全国1万施設の中で1位を取りました。ハーブから香りの水を作って整えます。この水風呂がご馳走で、立山連邦の雪解け水の湧き水を使っています。水は、田畑も耕せば、お酒の原料にもなる。経済効果は大体で2億円くらい。小さい村に、泊まってもらい、グループで楽しんでもらうことで経済効果が2億円に広がりました。



高知では、にこ淵周辺の自然を楽しめる施設を計画。楽しみにしていてください。

良かったのはやっぱり環境なんですよ。

早稲田の建築学科に入って、早稲田の経営システム工学科のメンバーとか、東大のメンバーとか企業が作ったコミュニティに入れたのが一番良かったなと思います。環境は本当に人を育てます。そこで出会った人たちが一緒に株式会社作って、とりあえずまず名刺作るところから始めたわけです。

若手のみなさん、ぜひ自分の名刺作ってほしいです。

自分が何者かっていうのを定義する

僕ができることはこれですとアピール

先輩の名刺を頂いたら、朝までにメールして、ありがとうございましたとか連絡することで人脈も作れるしね。そういったことも環境に居ないとできないじゃないですか。アグレッシブにお会いした人に名刺を頂いて、そこから次のチャンスを繋げていくってことです。

U Share株式会社

「住まい」と「学び」が一体化した選抜型国際学生寮を主軸に事業拡大を目指す



先輩方のお話を直にお聞きすることが出来る貴重な機会です
学生・若手社会人の会にお気軽にご参加下さい お待ちしています

2024年12月7日(土)
学生・若手社会人の会

枠を超えて進む
人とのつながりで広がる
新しい道

上田真路さん
(76回生)

上田真路さんご紹介

土佐高を卒業後、早稲田大学理工学部建築学科に入学。佐藤オオキ先輩が設立したデザイン事務所ne ndoを手伝う。多くを学ぶも、設計士としての修行不足や社会人としての対応不足で挫折も経験。

学生当時、建築デザインと不動産投資という異なる側面を融合させたプロジェクト(原宿の同潤会アパート)に出会い、ベンチャーじゃなくては出来ない規模の建築をさらに深く学ぶことを決意。

鹿島建設では、残業時間150時間と過酷な労働環境で建築設計士としての根本を学ぶ。大規模開発から地域に根付いた価値を創造する重要性を考え始める。鹿島建設入社4年目に不動産投資を開始。

2016年、ハーバード大学デザイン大学院へ留学。

2018年、GSD不動産デザイン学科を卒業。

現在、住まいと学びを融合させた「UShare」を開発運営。

慶應義塾大学SFC特任講師、早稲田大学特任講師など。



貴重なお話をありがとうございました

講演内容を抜粋してご紹介いたします



デベロッパー・アーキテクトという生き方

建築家も自ラリスクを取り、自分で土地を買って、不動産ファイナンスをするという考え。

実際に、鹿島時代に昼休みのランチタイムを5分にして、副業をしながら始めました。しっかり設計して、事業計画を作れば、銀行は3億円を貸してくれました。(詳しくは本を読んでください) 建物を建ると家賃が入り、キャッシュフローが不動産のバランスで成り立ちます。地域に寄り添った考え方と建築家のデザイン力でコミュニティをはぐくむ。周りの雑居ビルのオーナーさんも巻き込んでいきます。

ハーバード式
不動産投資術



資産26倍を
可能にする
世界最高峰のノウハウ

不動産のメカニズムを学ぶためにハーバードへ

留学決心から準備に3年かけてハーバード大学に留学しました。グラデーションスクールオブデザインには、建築、都市工学、ランドスケール、復興などのデザインがあります。

建物の形と不動産のファイナンスを同時に考えようという授業では、六本木ヒルズタワーや上海タワーをデザインしたユージン・コーンが先生です。デベロッパーに、しっかり収益を生む部分とパブリックスペースとのバランスを取る提案をする事を学びます。設計士ですが、エクセルの勉強をかなりしました。

ファイナンシャルモデルを作る授業では、世界的投資家ウォーレン・バフェットの不動産投資の右腕が先生で、不動産投資のディールを生々しく話してくれました。不動産とか都市の開発って全部チームワーク。人種もバラバラで得意技も違う何人かのチームで、研究から発表までします。



金冠山制覇 散策組は最短ルートで 登山組は2時間半縦走して

第26回 ハイクの会 西伊豆の旅 2024年9月7,8日



寝姿山の見晴台で



第26回ハイクの会では、新しい西伊豆の旅を味わってもらいたいと西本憲良(44回)会長を中心に企画しました。近年、バス旅規制が強くなり、早朝出発や最終遅延が厳しくなつたので、近場で行程を組む必要があり、またバス代金金額も3割増しとなり企画には苦労がいつぱいです。初日は、新宿を出発して月光天文台・プラネタリウムで夜空を眺め、昼食はしいたけの里でみずみずしい椎茸のBBQを楽しみました。下田に移動して寝姿山展望台では、夕刻迫る伊豆諸島が一望出来ました。宿泊は、駿河湾に隣接する伊豆まつぎ荘。水平線に沈む夕陽と最上階の温泉を堪能。夕食は宴会場に

ておきやくとなりました。朝食はバイキングを。ゆつたりの出発だったのでホテルの周りをお散歩された方も多かったです。山登りでは、散策組は15分で登れる最短ルート、登山組は2時間半の稜線歩きのルートで同じ金冠山山頂を目指しました。残念ながら富士山は見えませんでした。全員が山頂からの眺めを楽しみました。日帰り温泉で汗を流した後は、富士山の雪解け水が湧き出る柿田川湧水群へ移動。ボランティアガイドの説明を受けながら見学、透明度の高さと水量の多さに驚きました。お天気に恵まれ、全行程を楽しむことが出来ました。

俳句と川柳

いつも選者をお願いしている中山世一先生(37回)は、全員の俳句から良いものを選び、句に批評をしてくださいました。初参加の時には、俳句なんて書けないよと躊躇しました。帰路のバスの中で、先生の批評とともに他の方の作品に共感する時間が楽しいです。

選ばれた俳句や川柳の作者10名ずつに、陶芸家井上健郎さん(38回)の作品が賞品として送られます。帰宅後、その皿に惣菜を盛り付ける時、しいたけの美味しさや伊豆の空の色など、家族と旅の思い出が共有されます。

【俳句】

天 流れ星椅子に抱かれて夢の中

久万由枝

地 秋風の生まれる海の深い青

岡野啓

人 流れ星ひとつ下田の空に吸いこまれ

橋田恵美子

【川柳】

天 アプリ駆使顔修正であな誰?

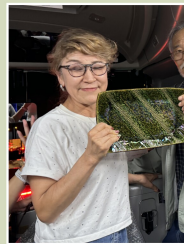
森 博子

地 立ったままパンツがはけないこの頃か

西内弘

人 リハビリでじんまもばんばもようおどる

高田谷洋



俳句天の久万由枝さん(右)
川柳天の森博子さん(左)



陶芸家 井上健郎さん(右)
俳句の先生 中山世一さん(左)

深まる秋の雨飾山へ

西伊豆縦走の後、もっと高い山にも登ってみませんかとお誘い、10月半ば過ぎの雨飾山登山を計画しました。百名山でもある雨飾山は、山頂までの往復は8時間ほど。梯子や岩場があったりと、多少の経験が必要なコース。最高齢81歳を含む7名が参加して、何度か登ったことのあるリーダーを先頭に列になって登りました。

北アルプスの雨飾山は、長野県最北にある

り登山口から秋真っ盛り。途中の沢を過ぎたら稜線歩きとなり、日差しを浴びた木々の色づきがきれいでした。山頂直下の笹漕ぎ道は、美女の横顔に見える事でも知られています(写真下)。前泊のペンションで作ってもらったおにぎりを、山頂のお地蔵さんの横でほおばりました。達成感もあり、美味しさは格別でした。

高齢になると、十分な余裕と柔軟性のある計画をたてるのが大切です。体力維持のためにも、いろんな山に時期を変えて登ることを続けていきたいです。(N)



ハイキング始めませんか 2025年9月6~7日で開催です

ハイクの会では、登山の方には稜線や山頂での見晴らしを喜んでもらい、散策の方には負担なく歩いて楽しんでいただけることを心がけてコースを選んでいきます。

一日目は、歴史的建物や観光地巡りを。二日目は登山や散策をします。バス旅行ですから、帰りの運転や電車の時間を気にすることもありません。下山後は、日帰り温泉で汗を流して、ビールなど飲みながら帰路につきます。

登山は初めてという方も大歓迎です。新しい趣味の一つに山歩きはいかがでしょう。高尾山など近郊の山からトレーニングを始めましょう。同窓生との旅行に、お子様との思い出作りに参加してみませんか。ご参加お待ちしております。



筆山会新年会

代々木倶楽部

2025年1月11日(土)



変わらぬ同窓のきずなを

西岡恒憲(41回)

筆山会の52回目の新年会は快晴の一日、代々木倶楽部で開かれた。筆者は筆山会新年会への出席は本当に久しぶりなので変わっているだろうなと思いつつ出席したのだが、メンバーも雰囲気もほとんど昔のままで、懐かしかった。驚いたのは、受付で「筆山会50年のあゆみ」という60ページに及ぶ大部の冊子を手渡されたこと。後で読んで見ると、土佐校関東支部同窓会と筆山会の草創期の話が先輩方により語られていることや、物故された大先輩方の追悼記事の特集がある。追悼記事には錚錚たる大先輩方のお名前がある。敬称略で書かせていただく。(順不同)



進藤貞和(3回)、北岡龍海(5回)、近藤久寿治(6回)、宮地貫一(21回)、吉澤信一(16回)、岡崎昌夫(23回)、泉谷良彦(29回)、浅井伴泰(30回)。いずれの方も日本国にそれなりの貢献をされた大人物ばかり。

この冊子は佐々木泰子筆山会会長(33回)初め、森健氏(23回)、西内一氏(30回)、前田憲一氏(37回)、岩村康生氏(41回)、鶴和千秋氏(41回)、中平公美子筆山編集長(59回)の人々の努力により編集・印刷・製本されたもの。この冊子は間違いなく、土佐校を愛する若い同窓生にも十分読む価値のある一冊である。

閑話休題、

正午過ぎに前田憲一筆山会幹事の開会宣言があり、佐々木筆山会会長のあいさつの後、少し遅れて到着した中谷元防衛大臣(51回)のあいさつがあった。中谷氏のあいさつは日本の外交と防衛についてホンの少しだけ触れていた。



その後、門田道也関東支部支部長(52回)のあいさつと乾杯の音頭とがあり、お楽しみのおいしい食事と懇親・懇談が始まりました。一時間程の食事・懇談の後、自由スピーチの時間となり、ここで毎度登場する



のが名司会者中島宏氏(38回)。土佐弁丸出しユーモア溢れる司会で、初めて又は久しぶりの出席者を指名して、挨拶と自己紹介をさせ、毎回出席してるが「どうでも喋りたい」という御仁を指名したり、変幻自在の名司会ぶり。今回最も大きな話題は、やっぱり土佐高の野球の話題だった。筆山会のメンバーは根っからの土佐高野球が好きで、濱田校長に期待して、早く甲子園に行つて欲しいというような話が多かった。中島氏が最後に話を引き取り「筆山会の長老方が土佐高の甲子園出場を見るためには、5年以内に甲子園出場を果たさなきゃ間に合わない」というと、「いや、3年以内じゃないと俺は困る」という人がいたりした。その他、丁野信一氏(73回)の社交ダンスの指導があり、80歳前後のメンバーが嬉々として踊っていた。宴たけなわながら終りの時間が近づき、最後に森健氏(23回)の中締めのおと、全員で土佐校の校歌と応援歌を斉唱して散会となった。ハプニングが一つあった。会場に財布が落ちていて幹事に届けられたが、中に入っていたカードの名前を見ると、途中退席した大臣閣下のものであった。後で無事ご本人に届けられた。

2026年は1月10日(土)です 皆さまのご参加をお待ちしています。



都会で子育て

小学校が春休みに入ると、娘はジュニアパイロットを利用して高知へ一人旅に出かけます。コロナで保育園が休園した際、高知の親に子守りを頼らざるを得なかったことがきっかけでした。

初めて一人で飛行機に搭乗する娘を見送るときは、子どもの成長や、コロナという劇的な状況を思うと、思わずウルツとこみ上げるものがありました。しかし、機内には同じような仲間もあり、思いのほか一人旅が楽しかったようで、それ以来、長期休みの定番になっています。



子どもを一人で実家に預けられるのは非常に助かる一方で、両親の様子を見ていると、お互いに4〜5日が限度かな、という印象です。「高知に帰って何をしよう?」実家を巻き込んだ子育てのテーマの一つです。

最近ハマっている楽しみは銭湯です。高知にはいろいろな銭湯がありますよね。令和4年に高知県立美術館の近くにできた「土佐望月温泉 姫若子の湯」に行ってみました。



土佐望月温泉
姫若子の湯
HIMEWAKO NO YU 温泉

この温泉の魅力は、開放感のある露天風呂です!種類も豊富で、子連れでものびのびと過ごせました。流行りのサウナも、スチームサウナや塩サウナなど種類が充実しています。年末の混雑する時期でも、貸出キーの利用に小銭が不要だったり、受付や精算の待ち時間がなかったりと、快適に過ごせました。

高知での思い出として、夏休みには「市民憲章のよきこい」に参加しようという計画しています。

参加方法は、事前予約不要で、当日受付を済ませればOKです。用意されたハッピを着てもよし、普段着でも参加できます。1時間ほどの練習でメインの追手筋を踊れるという気軽さが魅力です。生バンドの演奏が祭りの雰囲気を一層盛り上げてくれ、踊り終えた後の「高知の夏を堪能した!」という充実感は格別です。ただ、ひとつ困ったのが大手筋での待ち時間です。進行状況が予測しづらく、未就学児の子どもは踊り直前に眠くなってしまう、結局、抱っこで歩く羽目になりました。大手筋で待機する大人と、子どものエネルギーを温存するための別チームが必要かなと思いました。今年は最後まで踊りきれるかな...!と、今から楽しみにしています。

皆さんは、高知でどのような場所へ過ごしていますか?ぜひ筆山に皆さんの体験談を聞かせていただけると嬉しいです!

佐藤彩記子(81回)



ときどき会えるのが嬉しい(去年)



よきこいデビュー
イトコと(幼少期)

もう無理と思
ったらやめる
べき。めんどく
さいと思った
ら続けるべき。

思考の迷路に迷い込んだ！
ーその理由は、ゴールを見失っている/はっきりしてないから。
まず、ゴールを決める。悩みにたいしてゴールを設定すると霧が晴れていく。ゴールができれば悩みの半分は終わったも同然。

目の前のふた
りの熱々ぶり
はまわりを黒
こげにした

「期待」の反対は「驚き」
「怒り」+「期待」
=「攻撃」
「喜び」+「信頼」
=「愛」

脳の基本的な仕様は「被害」を極端に過大評価し「加害」を極端に過小評価する。

ひとつの美德がある。わたしが非常に愛している唯一の美德である。その名を「わがまま」という。わがままな者は自分自身の中にある法律に「我」の「心」のままだに従うのである。わがままがさほど愛されていないのは残念なことである。

初日の一
日も最後の
一日も同じ
24時間

集中力は貴重品

簡単に変わ
れないこと
を覚悟して
変わる。

死ぬ直前の走馬灯は恋に落ちたとき？子どもが生まれたとき？少なくとも、一番お金を出してローンで買ったマンションや、高額な指輪ではないはず。

人恋しくて、人と話をしたくて、人と何かをしたくて、人は人に会うために街へ行く。

「今日何の失敗をした？」を毎日問う。それだけでいい。
最悪なのはサイコロを振らずに人生を終えること。

「来月4,000km先に行こう」
→
「来月ハワイに行こう」

外国語を話したい人が一番言われて嬉しいのは、「あなた日本人じゃないでしょ」と疑われること

俺の敵はだいたい俺です。

死ぬのは嫌だ。
死ぬ前に宇宙に行けないのはもっと嫌だ。

楽しいは「らく」
面白いは「面(ツラ)が白くなる」
経験。後者をど
んどん経験しろ

ヒンシュク
は
金を出して
でも買え

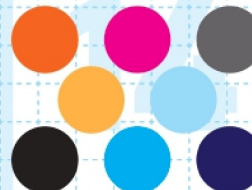
たいていの人々にとって、現在は未来よりもはるかに快適だ

寝ていたのにハッと起きて「ハッ！XXXX」と言った。

「訴求したいターゲットの悩みを考える寝床テスト。

やらないことを決める技術:好きなこと=抽象、嫌いなこと=具体的に出てくる。→嫌いなことから考える！

空色って何色？



3種の楽しい: ①ハッピーパラダイス ②不安と嬉しさのコンビ ③不満と解放のコンビ

確信できる過去の自分「道は自分で選んだ」

どうしたら自分は
ごきげん？

「わざわざ用意してくれたの？ありがとう！」
→「特別に用意してくれたの？ありがとう！」

この宇宙にひとりっきり という言葉はとてもさみしい。でも、この宇宙にふたりっきり という言葉はとてもロマンチック。

嬉しいことがあると誰かに言いたくなるのは、自分より喜んでくれる人に育ててもらったから。

習慣の敵はガッカリ。例)2時間毎日勉強する。→変数が2にある。2時間/毎日。→30分しかやらなかった。今日やらなかった。で、きん。と自分にガッカリさせない。→30分できた。あと1時間30分するには？→脳に慣れさせる。

成功の
反対は
妥協

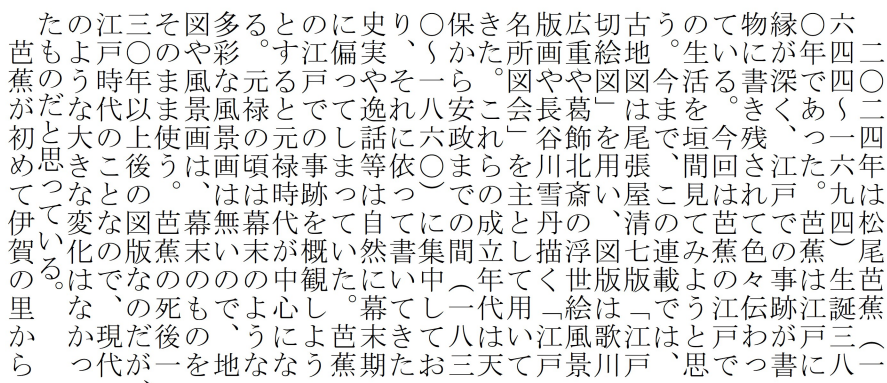
80点を100点にするには0点→60点 or 60点→80点の10倍の時間かかる。まず60点で兎に角出す。

私はgoogleスプレッドシートを生活アイテムとして使っています。思いついたことをメモしたり、勉強ノートや現金出納帳としたり、中でもお世話になっているのが、振り返りノート。「おお!このことばいいな!」「なるほど…」と、本や漫画で読んだ、動画や歌で聞いた、あるいは誰かに言われた考え方・ことばを残します。そして自分が悩んだとき、過去に同じこと悩んでなかったか?ヒントになる考え方はないか?など検索しています。今回、4年間のメモ1000行の中から抜粋しました。

モヤモヤが晴れますように!



深川芭蕉庵

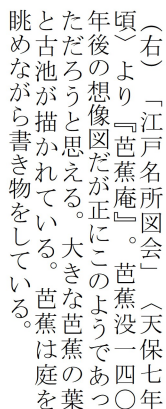


江戸に下ったのは寛文十二年（一六七二）九月、二十九歳の時であった。俳諧上の同門（北村季吟門）であった杉山（芭蕉の弟子となるのだが、「鯉屋」という屋号の幕府の御納屋（幕府に魚を納める御用人）であった。裕福な町人で、いくつかの別墅（別荘）を持つており、中川と隅田川を結ぶ小名木川という堀の一番隅田川寄りの橋である万年橋の袂にある別墅（芭蕉庵）に芭蕉を住まわせた。杉山杉心酔し、その財力で、師匠芭蕉に蕉の金銭面と住居面での面倒を見た。

芭蕉は江戸で俳諧の宗匠として多くの弟子を育てたが後に宗匠をやめて一人の俳諧師として、芭蕉庵に住んで、江戸の弟子たちと交流した。しかし風騒の心やまず、二、三年おきに急に旅に出た。短くて一カ月、長くて二年ほど、あちこちに旅をしては深川芭蕉庵に戻ってきた。40歳ごろの芭蕉の盛名は天下の俳人達

にとどろいており、日本全国に芭蕉を慕う俳人が多くいた。有名な旅は、貞享元年（一六八四）41歳の時の「野ざらし紀行」、貞享四年（一六八七）44歳の時の「笈の小文」、元禄元年（一六八八）45歳の時の「更科紀行」、元禄二年（一六八九）46歳の時の「奥の細道」等々があり、芭蕉の名吟は特に旅の句に多いが、ここでは、深川芭蕉庵や江戸の町で詠まれた句を引きながら、江戸での芭蕉の生活を垣間見てみたい。

延宝二年（一六七四）芭蕉31歳から元禄七年（二六九四）



51歳までの20年間、芭蕉の江戸での定住居は深川芭蕉庵であつた。火事にあつたり、古びたりして、芭蕉庵は芭蕉の生涯中三、四度も建てかえられてゐる。そのたびに杉風を中心にして50名以上の門人が木材やお金を寄進して建てかへられた。また、もともと高等遊民である芭蕉の生活資料(米塩、酒、小遣い銭等)は杉風はじめ門人等の仕送りに仰ぐのほかはなかつた。芭蕉は自嘲の句を作つた。

月雪とのさばりけらし年の暮
それに煮炊きのことも近所に
住む二人の門人が、かわるが
わる担当した。ある雪の降る
晩にその門人の一人がやつて
きたので、芭蕉は、
君火焚けよき物見せん雪丸げ
と興じた。

芭蕉庵には古い池があつた
元は鯉屋杉風が献上の鯉を養
殖するための池であつたがい
つしかそれも止み、ただの古
池になつてゐた。この池を背
景に人口に膾炙する名吟二つ
ができた。

古池や蛙飛びこむ水の音
名月や池をめぐりて夜もすが
ら

ある寒夜に七八人の門人が
集まつた。しかるに折あしく

芭蕉庵の食料品が尽きていた。そこで連中は手分けして買い物に出た。薪、酒、炭、茶、豆腐、とそれぞれ買いに出た。芭蕉は米を買う役だった。豆腐を酒を飲み、飯を食いながら各自の役割を題にして一句づつ作った。「深川八貧の句」がすなわちそれである。芭蕉の句は、

米買ひに麻の袋や投げ頭巾

またある寒夜、芭蕉庵の側の六間堀を行く猪牙船の櫓の音を、庵に一人端座して聞きながら、

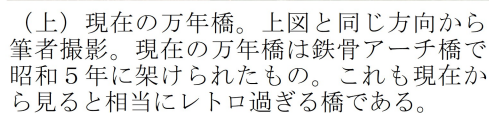
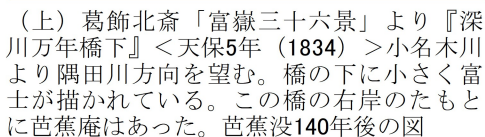
櫓声波を打つて腸（はらわた）

氷る夜や涙

芭蕉庵の軒先には芭蕉が植えられていて、その大きな葉が雨風に狂う夜は、芭蕉野分して盥（たらい）に雨を聞く夜かな

江戸初期、幕府は隅田川には橋を作らせなかった。隅田川の江戸城防衛のための東方の大外堀と見なしていたからだ。しかし、交通量の多い日光街道、奥州街道への連結のため、千住大橋を作った。その後、火事避難と川向こうとの交通の便のため、両国橋、新大橋、永代橋の順に作った。元禄時代の隅田川の橋はこの四橋である。（吾妻橋はずつとのちにできた）。このうち新大橋は3番目の橋として綱吉將軍のお声がかかりで元禄六年五月に起工しわずか数か月で完成させた。芭蕉庵のあつた場所より少しだけ隅田川の上手に建設された。この時、芭蕉庵に滞在していた芭蕉は新大橋の完成を非常に楽しみにしていた。工事半ばに、初雪やかけかかりたる橋の上竣工の際には、有難や頂いて踏む橋の霜という喜びの句を残している。

四一回 西岡恒憲



定年後に本を出版された方から、出版レーダーコーナーに連絡をいただくことが続いています。素敵な試みですね。その内のお一人、津野久志氏に出版への経緯や編集での苦労など、編集に対する思いをお聞きました。



『津野山鏡』 ～現在と過去～



『津野山鏡上 津野氏の歴史物語』2024.1
『津野山鏡下 津野氏の歴史物語』2024.7
リーフル出版 各2,640円
電子書籍 Amazon Kindle 各980円

現在、旧窪川町見付の焼木谷（通称「津野谷」）で高速道路の建設が進んでいる。同級生が建設省と高知県庁で推進を担った四国8の字高速ネットワークの一部となる。先祖が江戸時代から営々と開墾してきた土地、累代の墓、実家がその道路の下に埋もれつつある。退職を契機に、代償として得た金銭で、一族の歴史物語を書き先祖供養を行うことを決めた。

「津野山」とは、狭義には現在の梶原町（旧西津野村）と津野町（旧東津野村・葉山村）であるが、須崎市、中土佐町大野見、四万十町松葉川他を加えた地域を広義に津野山文化圏ととらえ書き進めた。高岡郡の半分の領域で津野氏一族が開拓し領した土地である。「鏡」は、『大鏡』等の鏡もの歴史物語に因んで名付け、一族の先祖が土佐と日本の歴史と文化に残した足跡に敬意を表した。本著は、平安時代中期八九二年（初代経高生誕）から宗家が滅びる一六〇〇年（二十四代親忠切腹）までを八二九頁に紡いだ津野氏二十四代の歴史物語である。同時にその分家中平氏、佐川氏、野見氏、古味氏、南部氏等の歴史書でもある。物語を支える考証も随所に配した。

高知県の古文書、京都他に残る古人の書物を読み解き執筆したが、漢文と古文には苦勞した。高二・高三の担任田内先生、土居先生の授業をまじめに学習しておくべきだったと反省している。

津野久志(48回)



気軽に相談してよ♪

- Uターンしなくなったら
私たちにご相談ください。
- Uターン、Uターン希望の方がいたら
私たちをご紹介します。



一般社団法人
**高知県Uターン
サポートセンター**

高知県、市町村、関係団体の43団体を社員とする一般社団法人です。無料職業紹介所として、高知県の企業と就職・転職希望者のマッチングをはじめ、Uターン希望者向け各種イベント、及び移住の際のサポートを行っています。

☎ 088-855-7748 ✉ jinzai@iju-jinzai.kochi.jp




高知本部

東京窓口
☎ 03-6206-1707
[開設時間] 10:00～18:00(平日)
東京都千代田区内幸町1-3-3 内幸町ダイビル8F



東京

セカンド
キャリアの
相談も
大歓迎!

高知で働きたい!を
応援します。
「高知求人ネット」




WEB

高知求人ネット

厚生労働大臣許可番号 39-△-300012

ご相談・ご紹介等、よろしくお願いいたします。
高知県Uターンサポートセンター



一般社団法人
土佐婚倶楽部®
TOSAKON CLUB

婚活のお悩みを心を込めてサポート致します
事業継承結婚推進相談所 詳細はHPで

代表理事・東京相談室長
顧問
顧問弁護士

織田祐輔 (45回生)
梅原 毅 (45回生)
浦田理有 (76回生)

URL <http://tosakonclub.com/>
東京相談室 080-5010-5545
〒204-0023 東京都清瀬市竹丘1-17-21

編集後記

私のはじめての『筆山』編集から12年。B5版のモノクロ誌に始まり、A4版オフセット印刷のカラーになったのは10年前のこと。これからも時代に合った会報誌の形を追求していきます。

さて、令和6年の郵便料金の値上げに伴い、今年からは『筆山』は二回を断念し、年一回の発行といたします。情報量は変わらないように努めます。時期は一月末から2月上旬頃を想定しております。

現在、イベントの担当者も編集員も仕事をしながらの作業です。執筆依頼には、ニッコリ笑ってお受けいただけますように、皆様のご協力をよろしく願います。(N)

出版レーダー



田島征三（34回生）

オレのうたをきいてくれ!
888ブックス 2024.8



田島征彦（34回生）

紙芝居 じごくのそうべえ
童心社 2024.10



塩田潮（40回生）

昭和のマンモス14 十河信二
新幹線生みの親 71歳からの開拓者
サイバースマイル2024.5



西村繁男（40回生）

紙芝居 うらしまたろう
童心社 2024.7



西田博（47回生）

集治監（明治の監獄）と歩く北海道
～釧路編
Kindle 2024.12



森岡正博（52回生）

現代思想 2024年12月号 特集＝
田中美津とウーマンリブの時代
『田中美津の哲学：「とり乱し」と「出会い」』
青土社 2024.11.27



須藤靖（52回生）

AIなき世界に戻れるか？ 物理学者、
17の思考実験
集英社インターナショナル 2024.8



門脇護（53回生） / 門田隆将

「左翼革命」と自民党崩壊 政界大動
乱同時ドキュメント
ワック 2024.12



英保未来（54回生） / 大森望

時間移民 劉慈欣短篇集Ⅱ（翻訳）
早川書房 2024.12



谷口ちさ（72回生）

ゆるい場をつくる人々：サードプレイ
スを生み出す17のストーリー
学芸出版社 2024.9

ゆるい場をつくる人々：

サードプレイスを生み出す17のストーリー 谷口ちさ

この本は、私が社会人大学院生として所属するゼミの有志
で出版しました。私は「事例7 話せるシェア本屋とまり木」の
大西裕太さん取材・執筆しております。

どの事例からも、ゆるいつながりには人生を豊かにするヒント
が詰まっていると感じさせられます。かく言う私も2024年
にUターンしましたが、高知に住まう方々・関わる方々とのゆる
いつながりをつくったからこそ、心の奥底でずっと願っていた
Uターンに踏み切ることができました。

人との関係性が希薄になりやすい都会に住まう人こそ、ゆる
いつながりが求められるように思います。サードプレイスがほ
しい人にも、サードプレイスを楽しむ人にも、お読みいただき
たい一冊です。